

別紙

第1回公認心理師試験（平成30年9月9日実施分）の合格基準及び正答について

1 合格基準

次の条件を満たした者を合格者とする。

総得点 230 点に対し、得点 138 点以上の者（総得点の 60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は一般問題が 1 問 1 点、事例問題が 1 問 3 点である。）

ただし、参考資料のとおり、問 20 と問 58 の 2 問については、複数の選択肢を正解として採点する。

2 正答

【午前問題】

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11
4	2	3	1	2	5	3	5	5	5	5
問 12	問 13	問 14	問 15	問 16	問 17	問 18	問 19	問 20	問 21	問 22
4	5	1	3	5	2	4	4	3/4	5	1
問 23	問 24	問 25	問 26	問 27	問 28	問 29	問 30	問 31	問 32	問 33
4	4	2	5	5	4	3	2	4	4	1
問 34	問 35	問 36	問 37	問 38	問 39	問 40	問 41	問 42	問 43	問 44
3	5	4	2	5	4	1	2	3	4	2
問 45	問 46	問 47	問 48	問 49	問 50	問 51	問 52	問 53	問 54	問 55
3	2	2	4	3	2, 4	1, 5	4, 5	1, 4	3, 4	1, 5
問 56	問 57	問 58	問 59	問 60	問 61	問 62	問 63	問 64	問 65	問 66
1, 5	2, 4	2, 3/2, 5/3, 5	1	1	3	2	4	4	4	4
問 67	問 68	問 69	問 70	問 71	問 72	問 73	問 74	問 75	問 76	問 77
3	1	4	3	4	4	3	3	3	2	4, 5

【午後問題】

問 78	問 79	問 80	問 81	問 82	問 83	問 84	問 85	問 86	問 87	問 88
5	4	5	4	4	3	5	4	1	5	2
問 89	問 90	問 91	問 92	問 93	問 94	問 95	問 96	問 97	問 98	問 99
5	3	5	3	3	2	3	3	2	2	3
問 100	問 101	問 102	問 103	問 104	問 105	問 106	問 107	問 108	問 109	問 110
3	5	3	4	4	5	2	2	5	5	1
問 111	問 112	問 113	問 114	問 115	問 116	問 117	問 118	問 119	問 120	問 121
5	2	1	4	4	4	2	4	2	4	3
問 122	問 123	問 124	問 125	問 126	問 127	問 128	問 129	問 130	問 131	問 132
1	4	1, 4	1, 3	1, 5	2, 5	1, 5	2, 3	1, 4	1, 3	1, 2
問 133	問 134	問 135	問 136	問 137	問 138	問 139	問 140	問 141	問 142	問 143
1, 3	2, 4	2, 4	2	4	3	4	4	1	4	4
問 144	問 145	問 146	問 147	問 148	問 149	問 150	問 151	問 152	問 153	問 154
1	1	3	5	1	3	2	4	3	2	2, 5

第1回公認心理師試験（平成30年9月9日実施分）における  
採点除外等の取扱いをした問題について

問20 対象喪失に伴う悲嘆反応に対する心理的支援について、正しいものを1つ選  
べ。

- ① 悲嘆を悪化させないためには、喪失した対象を断念することを勧める。
- ② 理不尽な喪失体験に遭遇したときは、現実検討ではなく気分の転換を優先す  
る。
- ③ 喪失した対象に対する悲嘆過程を共に体験し、その意味を共に探ることが目  
標である。
- ④ 悲嘆が病的な反応へと陥らないように、健康な自我の働きを支えることが目  
標である。
- ⑤ 悲嘆反応の中で出てくる喪失した対象への罪悪感は、病的悪化の要因になり  
やすいため、心理的支援の中で扱うことは避ける。

(採点上の取扱い)

③又は④を複数正解とする。

(理由)

正しいものを問う問題として、複数の選択肢が正解と考えられるため。

第1回公認心理師試験（平成30年9月9日実施分）における  
採点除外等の取扱いをした問題について

問 58 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律〈精神保健福祉法〉に基づく処遇  
について、正しいものを2つ選べ。

- ① 措置入院では手紙の発信が制限される。
- ② 任意入院の際は精神保健指定医の診察を要しない。
- ③ 患者を隔離する際は精神保健指定医の診察を要する。
- ④ 治療上の理由があれば、複数の患者を同じ病室に隔離することができる。
- ⑤ 身体的拘束を行った場合は、身体的拘束を行った旨、身体的拘束の理由、開始と解除の日時などを精神保健指定医が診療録に記載する。

(採点上の取扱い)

②③、②⑤及び③⑤の3つを複数正解とする。

(理由)

正しいものを問う問題として、複数の選択肢が正解と考えられるため。